

皆さん、おはようございます。ただいまご紹介いただきました、研究担当理事をしております松本でございます。

ただいま尾池総長からあいさつをさせていただきましたが、非常に多数の方々がお見えいただきまして、大変嬉しく思っております。

大学という、一般的には学部とか大学院があるというように思われているのですが、京都大学は世界に冠たる研究を推進する研究大学の1つであります。

ぜひ本日、このシンポジウムを機会にご理解いただきたいのは、大学の組織の中に学部・研究科以外に研究所あるいは研究センターというものがあるというものが独立してあります。京都大学では、先ほど紹介がありましたが、13の研究所、それから25の研究センター・ユニットがあります。これは、研究所の数だけを見ましても、全国で一番多い大学であります。また、尾池総長からお話がありましたように、教育、研究、医療に加え研究成果を社会に還元する社会貢献活動などが日夜行われている大学でもあります。

最近、世界トップ拠点为全国で5つ選ばれました。京都大学もその1つに選ばれておりまして、本日、この直後に講演します中辻憲夫拠点長の所属される世界トップレベル拠点、物質-細胞統合システム拠点（iCeMS）が今年の10月1日に発足しております。

また、本日、講演いただきます山中伸弥先生のiPS細胞研究につきましても、非常に迅速に新しい研究センターを大学として立ち上げることができました。1月22日に発足です。こういった新しい研究にも迅速に対応していくなど京都大学は最先端の研究分野にも力を入れている大学の1つであります。

国立の研究所と違いますから、何をもって大学の研究所、あるいは研究センター群の特色とするかという話があります。世界に冠たる科学技術立国として我が国が生きていくためには、最先端の科学技術、あるいはその背景にあります基礎学術、あるいは人文・社会科学等々の学問というものを大切にしていきながら、人材を教育し育成する必要があると考えております。

学部・研究科で人材を育成いたしますが、同時に研究所・研究センター群で最先端の研究に学生を参加させるというプロセスを通じて、つまり研究を通じて人材を育てるという立場から、京都大学は最先端の研究所を大事にしているところでもあります。そういったことをご理解いただきたいと思っております。

そのほか、ユニットという組織もつくっております、これは学部・研究科、研究所・研究センターを問わず、新しい研究動向に迅速に対応するという立場で、5つの教育ユニット、研究ユニットというものを立ち上げております。

本日は、京都大学に数多くあります研究所・研究センター群の中から、医学・生命系の先生方を中心に本日のテーマであります「人間と自然：新たな脅威と命を守るしくみ」に的を絞って講演とパネルディスカッションを行うシンポジウムを開催させていただきます。

京都大学全体のおよそ4分の1の教員が研究所・研究センター群に属しており、基礎から最先端の研究に取り組んでいます。本日は、その一部ではありますが、ぜひともいろいろなおもしろい話を聞いていただいて、京都大学は研究活動に力を入れている大学であることをご理解を賜ればありがたいと思っております。

どうもありがとうございました。（拍手）